

令和2年度
第2回 大館市木材利用推進会議 部会

会議録

日時：令和3年1月25日（月）14：00～16：00

会場：大館市役所 3階 第1委員会室

令和3年1月25日 第2回大館市木材利用推進会議 部会 出席者名簿

区分	所属	職名	氏名
部会長	産業部林政課	課長補佐	小棚木 信晴
委員	総務部総務課	課長補佐	大森 泰彦
委員	市民部市民課	主幹	桂田 中
委員	市民部環境課	主幹	工藤 忠敏
委員	福祉部福祉課	課長補佐	石井 文行
委員	福祉部子ども課	課長補佐	畠沢 依子
委員	産業部農政課	課長補佐	(欠席)
委員	観光交流スポーツ部観光課	課長補佐	富樫 照幸
委員	建設部土木課	課長補佐	(欠席)
委員	建設部都市計画課	課長補佐	乳井 康和
委員	消防本部消防総務課	課長補佐	佐々木 勝利
委員	教育委員会教育総務課	課長補佐	石田 誠樹
委員	教育委員会生涯学習課	課長補佐	糸屋 みさえ
外部有識者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司
事務局	産業部林政課木材産業係	主任主事	千葉 泰生
	建設部都市計画課営繕係	係長	久保田 武人
	建設部都市計画課営繕係	主任主事	鳥潟 昂秀

1 開会 部会長あいさつ

＜小棚木部会長＞

・木材利用促進計画について、第1回部会開催後に、計画案に対する庁内の意見集約や第2回推進会議での協議を経て、12月定例会の教育産業常任委員会にて素案の説明を行った。

・年明けの1月上旬より林業・木材産業関係者への意見聴取アンケートを行い、結果をとりまとめた。アンケート結果等を踏まえ、計画案について協議をお願いしたい。

2 報告（取組状況、木材使用事例など）

＜事務局（千葉）＞

・資料1に沿って説明。

3 大館市木材利用促進計画案に関するアンケート結果

＜事務局（千葉）＞

・資料2に沿って説明。

4 大館市木材利用促進計画に関する意見交換

◇「第1章 木材利用に関する基本的な事項」について

・意見なし

◇「第2章 木材の利用の促進に関する市の施策」について

○「1 市が整備する公共建築物の木造化及び内装木質推進」について

・意見なし

○「2 公用備品等における木製導入の推進」について

・＜委員＞アンケートで保育園での木製プレート等の導入について要望があった。要望事項として今後検討する。

○「3 公共土木事業等における木材利用の推進」について

・＜外部有識者＞国道7号は風景街道として整備されており、能代市では木製のフェンスなどを使用している。国の機関との情報交換をしてはどうか。

○「4 住宅・非住宅への木材利用の推進」について

・＜事務局＞「秋田杉集成材需要拡大事業」について、住宅向けの集成材は現状、市内での調達が困難であることから、次年度に予定している事業名称に変更する。

○「5 木質資源の多角的利用推進」について

・＜委員＞ペレットストーブ設置費補助事業について、利用状況が年々減少傾向にある。再生可能エネルギーとしての間伐材利用、といったイメージを伝えられるよう改善していく必要がある。

・＜外部有識者＞エネルギー利用に限らずに無駄なく使う、という意味であれば「多角的」より「多面的」という表現が良いのではないかと。アンケート結果で満足度・重要度ともに最下位ではあるが、事業の必要性など伝え方の工夫次第で改善は可能と思われる。

○「6 都市部との連携による木材利用推進」について

・＜事務局＞都市部への出張や民間企業訪問の機会が増えていくと思われる。各課でPRしたい事業や取組みがあれば情報提供をお願いしたい。

○「7 木育の推進」について

・＜委員＞木育キャラバンについては来年度も実施する方向で調整中。木育について、木のおもちゃで遊ぶだけでなく、木材利用にどのようにつながられるかを今後検討する必要がある。

・＜委員＞木育インストラクター養成講座について、現状、年1回の開催のため各種行事と日程が被って参加できない場合がある（参加機会を増やす工夫が必要）。

・＜委員＞木のおもちゃのイメージが先行していることもあるが、木育の定義を明確にする必要があるのではないかと。

○「8 「木の文化」を活かした「木のおもてなし」の推進」について

・＜委員＞野遊びSDGsは自然を楽しむ、というコンセプトの取り組み。五色湖キャンプ場に4台のトレーラーハウス（木の箱）を設置予定。

・＜委員＞自然体験の場として平滝自然観察教育林の活用を検討いただきたい。

◇「第3章 市の施策を推進するために必要な事項」について

・＜委員＞次年度以降、推進会議の開催頻度はどうなるのか。

・＜部会長＞最低、年1回開催する予定。時期は当初予算要求時期前での開催を検討中。施設整備に係る基本構想や計画について意見聴取が必要な場合は随時の開催が必要だと考えている。

・＜委員＞市民等への周知・普及について、大館北秋田地域林業成長産業化協議会などと連携し情報発信に努めてほしい。

◇「第4章 市の施策の到達点・指標」について

・意見なし

5 講評 秋田県立大学木材高度加工研究所 准教授 足立 幸司 氏

・大館市には森林や木に関連する見所や宝物がまだまだ沢山あるが、大館の方々にとっては当たり前すぎて見落としているところがあるのではないかと。コロナ禍で当たり前が当たり前ではない状況を市民の方々が感じている中でこの計画を打ち出すことはいいタイミングだと感じた。

・この計画の恩恵を受けるのは今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちで、このような木材利用に関する取り組みをやっていきますよ、といったことを子ども目線で分かりやすく伝えることが一番効果的だと思われる。

・計画を実行しつつ、苗から幹までに育つような長い目で取組みを継続していただきたい。

～閉会～

第2回 大館市木材利用推進会議 部会(令和3年1月25日)

